



セルフ・アドボケートとは、他の人に理解してもらうために自分のことを主張する人たちのこと。2022年11月13日に行われた「第3回日本ダウン症会議」での本人発表から、原稿全文をご紹介します。

私にとっての「まぜこぜの社会」とコロナ禍での人とのつながり

千葉県 ^{やの ゆうな} 矢野 裕奈

皆さんこんにちは。千葉県松戸市に住んでいる矢野裕奈です。私は中学3年生、園芸部に入っています。学校には毎日、坂道を登って通っています。この坂道は、幼稚園で2年、小学校で6年、中学校で3年、合わせて11年間、登り続けています。昔はいっぱい時間がかかった登校でしたが、11年目の今では家から学校まで20分くらいで通えています。「すごく早くなったんですよ!!!」

小学校に入学する時に校長先生から、「いいですね!! やってみましょう。」と言ってもらい、私の1年4組での「チャレンジ生活」が始まった事を、今でも覚えています。チャレンジすること、チャレンジャーになることが大好きなんです。「やってみたい。」と思う気持ちをそのままに取り組んでみる。だから、「チャレンジャーだね。」と言われると、うれしくなります。

私が生きてきた15年で、いろいろなことにチャレンジしてきました。

補助なしの自転車、卵チャーハン作り、一人でバスに乗り祖父の家に行く、一人で電車で乗り劇団の練習に参加する、一人で南アルプス子供会の「一週間キャンプ」に参加する。やりたいと思うことを一つ一つ取り組んできました。



その中でも4年前にチャレンジした「平成まぜこぜ一座、月夜のからくりハウス」という舞台に「劇団人の森

ケチャップ」の仲間と一緒に出たことが忘れられません。

「ゲット・イン・タッチ」という仲間がいて、私が好きな人、東ちづるさんが代表をしています。その時に、「まぜこぜの社会」という言葉を教えてもらいました。東京パラリンピックの前にネット配信された「まぜこぜアイランドツアー」。ご覧になった方も多くいらっしゃると思いますが、「いろいろな人がたくさん出ていて、カッコよくて、ステキな映像でしたよね!!!」

それを見て、「まぜこぜの社会」ってどういうことなのだろうと、私はいっぱい考えました。世の中にはいろいろな人がたくさんいておもしろい。でも、全部の人とは友達になれないから、近くの仲間と一緒にいることがとても落ち着きます。

しかし、劇を見たり、絵を見たり、いろいろな人のお話を聞いたり、勉強会に行ったり、ボランティアに参加してみたりすると、自分が知らないところにステキな人がいっぱい、いっぱいいることを知ります。

私はダンスが大好きで、コロナ禍になる前は、毎週末に劇団の練習をしていました。その時に感じたのは、一人で踊るのも楽しいけど、仲間と一緒に踊るのがすごく楽しいということでした。

上手な人に教えてもらうと、もっともっと楽しくて、自分とは全然違う人の踊り方の人や、車いすの人、背が高い人、低い人、大きい人、小さい人、いろいろな言葉で喋る人、いろいろな目の色の人、色々な人が一緒に踊るほうが、色々な味が出てとても楽しくなるし、まわり



で見ている人も、絶対に楽しくなると思います。

一人でいるのがいい時もあるけど、いろいろな人がごちゃまぜにいて、楽しむことができたら、本当に楽しくてワクワクしてしまうと思います。私が私のままで、その人がその人のままでいられて、そこに生活も仕事も遊びも家もある所が「まぜこぜの社会」っていう。私は、そんな風に考えました。

色々な難しい言葉もあるようですが、私は私のままでいて、周りの人に優しくしたり、優しくされたり、困っている人がいたら、「大丈夫?」と声をかけたり、一緒に助けてくれる人を探したりができるといいなあと思います。

私はできそうに思うのですが、皆さんはどうですか? 難しそうですか?

勇気や元気は必要かもしれませんが、ちょっと周りの人に笑顔であいさつをしてみると、きっと何か変わっていけるんじゃないかな? と思います。そして、世の中ゼーんぶが「まぜこぜの社会」になってくれたら、戦争も無くなり、平和な社会になると思います。



しかし、今は「コロナ禍」です。目に見えないウイルスはとても怖いです。

私が中2になって急にコロナが広がりました。昔はみんなで手をつないだり、歌を唄ったり、踊ったり、楽しいことがたくさんあったのに…。みーんなできなくなりました。

学校が休みになり、カラオケや劇場に行けなくなり、そして、会いたい人に会えなくなりました。

私には、生まれた時からずっと応援してくれた仲良しのおばさんが二人いましたが、急に亡くなったと連絡が来ました。お見舞いにもお葬式にも行けませんでした。ぜんぜん会えないままの「さよなら」は本当につら

いです。

そして、大好きな友だちがいます。大好きだけど今は、コロナをうつしたくないので会えません。会えなくて淋しいので、ラインで顔を見ながら話したり、オンラインゲームで遊んだりして、会いたい気持ちを抑えています。

テレビでは、毎日、毎日、すごい数の人が感染し、亡くなって、とても悲しくなるニュースばかりでした。今は、「緊急事態せんげん」が終わりましたが、どうしてこんな風になってしまったんだろうと不思議でわかりません。ワクチンも受けたし、消毒もマスクもきちんとしています。それでも感染してしまう人がいる。

去年は林間学校が中止になり、今年は修学旅行も中止になり、中学校での楽しい行事がドンドンなくなってしまいました。でも、そんな事はガマンできます。感染して、苦しんで、亡くなってしまふのは、本当に悲しくて、ガマンなんてできません。

なので、みなさん、感染しないようにしてください。コロナになっても治る薬ができたらいいなあと思います。薬を作るのは大変でしょうが、苦い薬でもちゃんと飲むので、どうか早く作ってください。私は薬を作ることはできませんが、神社に行って「早くコロナが終わりますように」とお祈りをしています。私の好きな人たちが悲しいことにならないように、皆さんも注意することを忘れないでください。これからも、「消毒、手洗い、うがい、くっつかない、触らない」に気を付けて行きましょう。私は私のできることを頑張りたいです。皆さんも、一緒に頑張りましょう。きっとまた、昔のようにみんなで集まって、楽しくお喋りができる時が来ることを願っています。

来年は「屋久島おおぞら高等学院」で高校生になります。これからも、もっといろいろなことにチャレンジして行きたいと思います。

ごせいちょう、ありがとうございました。

☆矢野さんの本人発表の動画は、「世界ダウン症の日キックオフイベント2022」でも配信されました。動画がアーカイブされているのでぜひご覧ください(アーカイブURLはP04参照)。